

NEWSLETTER 25

GLOBAL MAPPING

地球地図はヨハネスブルグへの道を開いた

宇根 寛、国土地理院



持続可能な開発のための世界サミット(WSSD)の準備過程はグローバル・レベルに向かって歩みを前進させた。WSSD 第2回準備委員会(PrepCom2)は1月27日～2月8日までニューヨークの国連本部において開催された。ISCGMは会期中、アジェンダ21の実施の成功において地球地図が重要であることを説明するために様々な活動を行った。

日本国政府と地球地図国際運営委員会の共催で行われた「持続可能な開発のための地球観測と地球地図の取り組み」に関するサイド・イベントは、2002年2月1日、18時15分から90分にわたり国連会議センターの第6会議室において行われた。これはPrepCom2の全サイド・イベントの中で最も多い参加者を集めたものの1つであった。発表者や支援スタッフに加えて、13カ国と複数の国連機関から40名が討議に参加した。

本イベントの前半は、地球観測の取り組みの持続可能な開発への貢献に焦点があてられた。日本国文部科学省参与の村越直政氏は、「持続可能な開発のための全球の森林モ

ニタリング」を発表した。日本国宇宙開発事業団の沖理子博士は、「モンスーンと全球の水循環に関する全球観測と観測の強化」について発表を行った。

本行事の後半は地球地図にあてられた。

ISCGM事務局長の秋山實は、「地球地図の貢献の概要」を発表した。秋山はWSSDの目的から見た地球地図の重要性の観点から、地球地図の取り組みの概略を述べた。

コロンビア国アグスティン・コダシ地理院院長のサンティアゴ・ボロロ氏は、「地球地図整備のための国際協力」について発表を行った。ボロロ氏は、特に開発途上国における国家の開発のための地理データの重要性を説明した。また彼は、GSDIやPCIDEAの取り組みを紹介し、全球の地理データ整備のための国際協力の重要性も強調した。

米国地質調査所地理主任研究官のジョン・A・ケルメリス博士は、「持続可能な開発のための地球地図の今後の利用」について述べた。彼は、開発途上国でさらに利用し易くなる今後の地球地図の特徴とその利用について何点か論じた。彼は現在何が利用可能であるかや、今後の方向性についての詳細と今後の価値について講演した。

すべての発表者は、衛星データや地球地図の整備や利用において異分野や国際間の協力が重要であることを強調した。利用の重要性は発表と質疑の両方で検討された。聴衆は、衛星データや地球地図が、すべての国々の環境保護にどのように役立つかや、開発途上国によ

り自国の経済を改善し生活水準を向上させるためにどのように利用されるかについて非常に興味を持っているようであった。

発表時間は十分ではなかったが、発表は高い理解を得、サイド・イベントの時間中とその後に多くの質問が寄せられた。

ISCGMの委員や協力者、ことにPrepCom2の日本代表団の努力により (ISCGM事務局の職員は日本代表団の一員として登録し活動した。)、PrepCom2に参加した全ての国の人々は地球地図の存在と重要性について学んだ。それは、PrepCom2の最後に発表された議長ペーパーに以下の2項が含まれたことにより証明された。

IX 実施手段

意思決定のための情報

28 (c)

環境の影響や土地利用及び土地利用の変化などに関して、きわめて重大な情報を提供す

るために、地球地図や地理情報システムなどの人工衛星を利用した技術の、国際協力による整備と幅広い利用を促進する。

28 (d)

国際協力による、地球地図や地理情報などの、大気、海洋及び陸地の要素に関する応用技術の整備を促進する。

WSSD 第3回準備会合(PrepCom3)は、2002年3月25日～4月5日まで再度ニューヨークの国連本部において開催される。ISCGMは世界サミットに向けて全ての過程において鋭意努力を続ける。



ISCGMはWSSDのNGOとして正式に登録

全地球閣僚級環境フォーラム(GMEF)及び空間データに関する共同の取り組み

サンティアゴ・ボレロ、GSDI運営委員会委員長

UNEPは、最近コロンビア国カルタヘナにおいて(2002年2月13日～15日)、第7回運営審議会特別会合を開催した。本会合には80名以上の環境大臣と120名の代表が参加した。

議事日程のほとんどは政治問題で埋められたが、まもなく開催される持続可能な開発世界サミット(ヨハネスブルグ、2002)に関し「正しい環境政策に資する信頼できる情報」の進捗を検討するための場所が設けられた。この点で特に価値を持つのは、WSSDのためにその場で採択されたCivil Society Statementであり、「人材育成を含む持続可能な開発のためのガバナンス」に言及

し、声明では「持続可能な開発のための教育と情報に関する総合戦略のために実質的な財政支援が必要である。」と述べる。

行事の一環として、アジェンダ21第40章にもとづき、情報の標準、政策や内容において現在進行中の全球規模の活動を利用し、国際的な管理のための情報の共有と入手の改善を目的とする国連全体のEarth Watch Decision Support System構想を発表するUNEPの早期警戒審査部による特別セッションが設けられた。

UNEPがその関係者のために提供をしようとするEarthwatch DSS構想が、実際のデモンストレーションにもとづき、UNEP早期警戒

審査部部長のティム・フォースマンにより発表された。ティムは明確に、ISCGM、GSDI、DE、UNGIWG及びOGCとの間に効率的な相互関係が必要であることを強調した。

その後、心に残った印象はEarthwatchは確かな取り組みであることである。しか

し、将来、複雑な国連組織の中で他の包括的な構想が整備されるかもしれない。いずれにせよ、進展させるためには、EDSSは多くの支援、調整や協力を必要とし、当然ながら、それはまたUNEPがGSDIや地球地図のために新しい扉を開くことをも意味する。

グローバル土地被覆 2000 プロジェクト “First results” ワークショップ

佐藤 浩、国土地理院



2002年3月18～22日に、イタリア・イスプラのEC共同研究センター(Europe Commission/Joint Research Center)でグローバル土地被覆2000プロジェクト“First results”ワークショップが開催された。このプロジェクトは、SPOT/VEGETATIONを使って2000年現在のグローバル土地被覆分類データ(解像度1 km)を作成することを目的としている。今回のワークショップには21ヶ国・地域から59名が参加の予定だったが、一部欠席もみられた。日本からは千葉大学建石助教授と私が参加した。

ワークショップは、18～19日に各研究者によるプレゼンテーション、20～21日に分科会、22日に総括の順に進められた。

プレゼンテーションでは、各研究者がヨーロッパ、南アメリカ、アジア、アフリカの土地被覆分類データ作成の結果を説明した。それらのほとんどは、教師無し分類で分けられた

領域を現実に合わせるためクラスタリングして、クラスターに凡例を与える手法だった。建石助教授は、教師つき分類の手法で作成した土地被覆データを示すとともに、分類精度の向上のためにグランドトゥルース収集とその整理の方法を提案した。その他、プレゼンテーションでは、データの品質評価手法の提案、関連プロジェクトの紹介、今後打ち上げ予定のSPOT衛星の仕様などが紹介された。

分科会では、関心のある地域に応じて参加者がヨーロッパ、南アメリカ、アジア、アフリカの4つのグループに分かれ、各研究者によって作成された分類結果の妥当性を議論した。

総括では、プレゼンテーションの内容をWebなどの手段で公開すること、各研究者は11月までに品質を評価した上で土地被覆分類データを再提出すること、最終的には各地域の分類データをグローバルデータに集約することが参加者の間で確認されて、閉会した。



地球地図利用のための先端技術セミナー 国際建設技術協会、福島芳和

地球地図のガンジス河への先端的な利用に関する研究が日本国国土交通省により東京大学の研究者と共同で進められている。この研究の成果が2002年3月19日、ダッカにおけるバングラデシュ測量局後援のセミナーで紹介された。「水資源評価（越智博士）」、「農産物の国家管理（ラジャン博士）」及び「土地利用解析（柴崎博士）」が東京大学から発表された。ま

た、「地球地図の紹介（国際建設技術協会、福島）」、「バングラデシュの流水量（バングラデシュ宇宙調査リモートセンシング協会、ホク博士）」及び「地球地図促進のための概要（バングラデシュ測量局、シャヒドゥラ准将）」の発表も行われた。セミナーのかなりの参加者が地球地図の利用に大きな関心を持ち、地球地図プロジェクトの重要性を高めた。

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況	2002年3月25日現在
地球地図の参加国・地域数	90ヶ国・地域
地球地図への参加を検討している国・地域数	31ヶ国・地域

地球地図への最近の参加国

機関名	国名	参加年月日
国立リモートセンシング・地理情報センター “GIS Centras”	リトアニア	2002年1月29日

地球地図データの公開

公開されたデータ
パナマ、3月28日

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2002 年

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 4月19日～26日、米国、ワシントン
第XII回FIG会議及び第XV回総会 • 5月23日～24日、タイ、バンコック
第14回ISO/TC211本会議 • 5月27日～6月7日、インドネシア、バリ
CSD10第4回準備委員会 • 6月17日～19日、米国、ワシントン
UNGIWG第3回本会議 | <ul style="list-style-type: none"> • 8月26日～9月6日、ドイツ、ベルリン
第8回国連地名標準化会議 • 8月26日～9月4日
南アフリカ、ヨハネスブルグ
持続可能な開発のための世界サミット • 9月16～19日、ハンガリー、ブダペスト
第6回GSDI会議 • 9月20日、ハンガリー、ブダペスト
第9回ISCGM会合 |
|---|--|

編集、発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先： 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org